

こんにちは。山内所長の後任として、6月末から運輸総合研究所所長になりました屋井です。

研究報告会がこの形式になってから参加するのは自分は初めてになりますが、本日は、web参加を含めて大変多くの方にご参加いただいていると聞いております。

さて、ドローンは、災害現場、調査、インフラ点検など様々な現場で活躍しており、戦争を含めて多くの用途に使われており、現在では、なくてはならない技術になっています。

本日発表する安部客員研究員は、この研究所の中で過去にも様々な課題に取り組んで、成果をきっちり上げておられる研究者です。今回は、ドローンを対象に取り組んでおられます。ドローンの将来については、特定分野ではかなりの実績を挙げてなくてはならないものになっていますが、輸送や物流の分野では、まだまだ課題があると認識しています。その当たりについて、後でコメンテーターの中村様から触れることと存じますが、輸送では、医薬品を扱う場合などとは別に、一般の商品を扱う場合には、採算性とコストなどまだまだ課題が多い状況で、十分なニーズがあるかという点や、特に低空の場合の落下の問題・プライバシーの問題など幾つかの課題があり、今後の研究として取り組む課題が非常に多い状況です。

その中で、安部客員研究員の取組みでは、実証実験の機会を捉えて、現にドローンが近くを飛んでいることを認識している方々を対象に、その機会にアンケート調査を行い、一定程度のリアリティがある中で得られた調査結果を使って分析を行っています。将来的に様々な観点から、社会におけるドローンの、ある意味では普及促進、ある意味では社会的受容性を高めていくことに役立つ、とても重要な研究を開始されました。

コメンテーターの中村様は、鈴木真二先生と共にスタートからドローンのフロンティアに取り組んでいらっしゃる、草分けでいらっしゃいます。その取り組んでいらっしゃる視点から適切なコメントを様々に頂けると期待しておりますので、何卒宜しくお願いいたします。

以上